

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491900054	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月2日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原		
所在地	(〒239-0835 )		
	神奈川県横須賀市佐原1-4-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と親交を深めご入居者様が安心して暮らせるように私たち職員は日々ご入居者様に寄り添い共に過ごしています。</li> <li>・周りの環境にも恵まれており、建物すぐ横には果樹園があり毎年その実ができるとオーナー様より声をかけて頂き、果樹狩をしています。裏には桜の大木が春になると見事な大輪を咲かしてくれるので、お天気には散歩やお花見を楽しんでいます。</li> <li>・地域の方、ご家族のご協力して頂き今年もニチイまつり&amp;佐原の祭礼を開催することができました。</li> <li>・毎週2回地域のラジオ体操にご入居者とスタッフも参加し交流を深めています。</li> </ul>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年10月26日	評価機関 評価決定日	平成29年1月17日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、京浜急行線北久里浜駅からバスで5分の佐原橋バス停で下車し、徒歩3分の住宅街に位置している。バス通りから離れ、背後には小高い緑豊かな丘があり、閑静な環境である。事業所の1階には、デイサービスと訪問介護の事業所が併設されている。バス通りに面して、スーパーマーケットやファミリーレストランがあり、利用者は、買い物や外食に事欠かない。</p> <p><b>【地域との連携】</b> 事業所では、基本理念にある「地域の方々と気軽に触れ合える開かれた憩いの場を目指します」を実行するため、地域との連携に取り組んでいる。特に、町内の祭りに合わせ「ニチイ祭り」を開催しており、利用者が持ち寄った品物を販売するバザーには、多くの地域の方が訪れる。利用者は、町内会が週2回、公園で行っているラジオ体操に参加している。近隣の小学校児童の来訪や中学校生徒の職場体験学習を受け入れている。演奏会などのボランティアが定期的に訪れている。事業所裏の緑地にあるミカン畑では、所有者のご厚意により、毎年ミカン狩りを行うなど利用者の生活は地域に支えられている。</p> <p><b>【利用者家族等との連携】</b> 利用者家族との連携を大切にしており、月に1回発行の「佐原新聞」は、事業所の事業報告や行事予定に加え、家族の安心のため利用者一人ひとりの心身の状況を個別に伝えている。家族や知人等が気楽に来訪できるように気を配っており、利用者との関係継続を支援している。また、1階に設置している相談室は、家族との相談等に利用されており、プライバシーの保護への配慮がうかがえる。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼時に唱和し、さらに各ユニットの入口に提示することで共有し意識付けに努めている。	理念は、前管理者と職員が話し合っって作ったものであり、朝礼時等に唱和している。特に理念にある、利用者の「人生を尊重し、その人らしい生活を送る」を意識して支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加させて頂き地域の方との交流を深めている。日々、ご近所の方に挨拶は欠かさずできている。	佐原町内会に加入し、町内会の祭り、いちご狩り、敬老会、防災訓練、ラジオ体操等の行事に参加している。町内会の祭りに合わせ、ニチイ祭りを開催し、会場は地域の方で賑わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や地域の方からの相談を受け活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しその都度状況報告している。又意見や要望があれば、その後の業務に取り入れているようにしている。	2カ月に1回定期的開催され、事業所の年間計画、運営状況、外部評価結果を報告している。評価結果はユニット玄関に掲示している。出席者からは町内会行事等の案内があり、地域との交流が進んでいる。	運営推進会議を定期的開催されるなど努力されていますが、地域包括支援センター職員の出席がありません。引き続き出席の働きかけを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市高齢福祉課、生活福祉課、地域包括支援センターへ判断が迷う事や分からないことは助言を頂きながら進めている。	横須賀市高齢福祉課と事業所の運営について相談し、生活保護に関しては生活福祉課と連絡を密にしている。また、市や地域包括支援センターの研修に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修へ参加し勉強会を実施している。マニュアルはいつでも観覧できるようにしている。	定期的に社内研修を行っている。市の高齢者虐待防止研修に出席した職員が事業所で報告をして共有した。ユニット玄関には高齢者虐待防止のスローガンを掲示している。ユニット玄関やエレベーターは施錠せず、職員が見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修に取り入れ、ミーティング研修を実施し職員に周知徹底している。 横須賀市の高齢者虐待研修には必ず参加するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施して身体拘束等の勉強会の中で関連付け話し合いを得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度確認をしながら納得が頂いた上で進めるように常に心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人でお客様アンケートを年1回実施している。また、各ユニット玄関にご意見ご要望箱を置き積極的に取り入れている。	家族会を年2回開催し、意見・要望を聞いている。野菜栽培の要望に対してはイチゴやキュウリの栽培をした。法人では毎年お客様アンケートを実施し、事業所では毎月「佐原新聞」で利用者の様子を家族に伝えている。	家族の意見、要望を運営に反映する努力をされていますが、「佐原新聞」など便りの一層の活用に取り組み、家族との情報共有をさらに進められることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングと各ユニットミーティングを開催し職員が意見できる場を設けている。必要があれば改善をしていくよう努めている。連絡ノートを活用している。	管理者は毎月のミーティングや日常のコミュニケーションの中で職員の意見を吸い上げている。また職員とは年に1回「業務の振り返りシート」により個別面談を実施している。外部研修受講の希望に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実施し就業環境、条件を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内の提示し希望者、上長の判断でその人に必要だと思われる研修についてはその都度、声かけしている。回覧し希望者にはシフト調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修への参加を積極的に進め情報交換を行わないながら、より良いサービスを追及していける環境を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用しゆっくりと時間をかけながら聞き取りをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に説明をし、不安があればどんな些細なことであっても丁寧に答える姿勢をみせて不安を解消するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方から話しを伺いながらセンター方式を使ってアセスメントをして支援の見極めを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほほえみ横須賀佐原、基本理念をいつも意識するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たち職員の役割は、本人と家族の橋渡しであることを意識してもらおうよう日々伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や知人が面会に来てもしリビングやお部屋で気兼ねなく過ごすことができるように支援している。	家族や昔の職場の友人など知人の来訪時には居室に案内しお茶を出している。美容院や墓参り、馴染みになった近隣のスーパーマーケットやファミリーレストランに出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の体調を考慮して仲間同士の時間やお茶の時間を職員が入って設けることで孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了も電話相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の表情、観察と会話の中でご本人の気持ちを汲み取りセンター方式を活用し一人ひとりがどのような希望を持っているかを掘り下げていくようにしている。	入居時のアセスメント、入居後は家族の来訪時に聞くなどして把握している。また、センター方式シートを作成し半年ごとに見直しをしている。本人からは口腔ケアやトイレ時に何気なく聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しご本人の気持ちから聞き取りで分からないことはご家族様や以前関わっていたケアマネージャーからも聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用するとともに各ユニットミーティングで話し合を行い現状の把握を共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族への聞き取りを行なうとともに医療関係者の意見を参照し職員とカンファレンス、日常支援シート評価の作成のもと介護計画書を作成している。	モニタリング、居室担当職員による「日常生活支援シート」の評価、カンファレンスを行っている。本人・家族や医師の意見も取り入れて6カ月毎に介護計画書の見直しをしている。心身の状態に変化がある時は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌へ落とし込みユニットミーティングで共有し介護計画に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療関係者のアドバイスを受け健康管理に努めている。また訪問マッサージの利用などもニーズに応じて取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに欲しい物を買に行き地域の方々と触れ合う機会を持てるように支援している。また、土地のオーナーの敷地内にある果樹園の収穫作業のお手伝いをさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間、祝日祭日にも対応して頂き、ご本人ご家族の安心につながっている。	入居時に、24時間対応できる主治医を利用者・家族に選択してもらっている。内科は月に2回の往診、訪問看護は週1回の訪問がある。精神科の往診を受ける利用者もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師にその都度相談し情報交換に努めている。係りつけ医院、看護師に常にアドバイスを頂き不安や悪化の防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は早い段階でご家族、病院側と連絡調整を行い早期退院に向け病院関係者と連携を密に取るようにしている。又退院前にはカンファレンスに同席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	係りつけ医院と相談し、その結果をその都度ご家族へ報告している。また今後の見通しなど話し合い方針の見直し、情報の共有に努めている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に説明し同意を得ている。利用者が終末期を迎えた時は、本人、家族の意向に沿い看取り等の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に消防隊員の方から応急手当など実践訓練を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年2回実施している。又民生委員やご家族への参加を呼びかけアドバイスを受け今後活かしている。	防災訓練は年2回実施しており、うち1回は消防署の立ち合いがある。訓練には地域住民の協力がある。町内会の訓練にも職員、利用者が参加しており、地域との協力体制が出来ている。災害に備え3日分の食料、飲料水の備蓄があり在庫管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスや高齢者虐待防止の勉強会を行なうとともに、フロアミーティングで確認している。	人権やマナーの研修を定期的 に実施している。利用者には 目上として尊重した言葉かけ や傾聴を心がけるよう職員に 指導している。個人情報関連 の書類は事務室の書庫で施錠 管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声かけを行いその結果 を記録に残すことで共有を図 り、対応の仕方を工夫し続けて いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントなどでご本人の生 活やリズムで把握し、尊重する 体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望の美容院へ行かれるよう 日程をご家族に相談上支援行な っている。また本人希望の化粧 品なども買い物支援を行いおし ゃれができるように支援に努め ている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や祝日には、イベント 食を提供している。外食の機会 を設けている。	利用者も調理、配膳、下膳な ど出来ることを手伝い、職員 も出来るだけ同じテーブルに つき理念の「家庭的な我が家 を目指し」ている。また、利 用者が作業しやすいように低 めの盛り付け台が置かれてい る。業者から配達される食材 を個々の利用者の嗜好、食事 形態に合わせ調理している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録や水分表を確認し水分補給が思うように取れない場合は少しずつ回数を増やして摂取していただけるように時間をずらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行なっている。個々の往診医に定期的に検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認して排泄パターンを把握しそれに合わせたトイレ誘導をしている。	個々の利用者の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。的確なトイレ誘導によりおむつからリハビリパンツに改善したケースがある。浴室・更衣室から出入りできるトイレがあり羞恥心に配慮した失禁対応ができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維など食事の中に取り入れように食材業者と話し合っている。必要があれば主治医に相談して薬を処方して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用様のタイミングや体調に合わせて入浴できるように支援している。	入浴回数は週2～3回が原則である。入浴時間や回数は利用者の希望に応じている。入浴を好まない利用者には、職員が交代で声を掛けるなどの工夫をしている。希望があれば同性介助をしている。ヒートショック防止対策として浴室にはヒーター、脱衣室にはエアコンを設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を尊重し、無理強いはしない。また、日々の体調変化を見逃さずにさりげなく休憩を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを活用し職員がいつでも回覧できるようにしている。処方の変更時には申し送り、介護日誌を活用し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を元にそれぞれができることのサポートをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、買い物にでかけている。 毎週2回地域のラジオ体操に参加している。	天気の良い日には車椅子の方も一緒に近所の公園に散歩に行っている。近くのスーパーマーケットに衣類や日用品の買い物に出かける利用者もいる。町内会主催のラジオ体操に週2回参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでかける際は、ご入居者様に必要物品を聞いている。車椅子方もレジに並びお金のやり取りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはいつも行なっている。 毎年、年賀状を書く支援も行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期のイベントや季節に応じ飾りつけを変えている。	リビングに利用者が制作したハロウィンの飾り付けがあり、クリスマス、正月、バレンタイン、ひな祭り等にもそれぞれの飾り付けがなされ、季節を感じることができる。訪問日は、利用者はテーブルで折り紙、塗り絵などを楽しんでいた。日常清掃は毎朝利用者も手伝っており、業者による定期清掃は年2回実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分やプライベート部分があり個々に自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人の馴染みにしている物など自由であることを伝えている。	居室の照明、エアコンは備え付けであり、ベッド、タンス、テレビ、仏壇、机、椅子、時計、カーテン等は利用者が持ち込んでいる。家族写真、人形などが飾ってある居室もある。床に絨毯やマットレスを敷いて布団で就寝する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計、手すりの設置が充実している。ナースコールがあり必要に応じ使用している。		

事業所名	ニチイケアセンター横須賀佐原
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼時に唱和し、さらに各ユニットの入口に提示することで共有し意識付けに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会の行事に参加させて頂き、地域の方と交流を深めている。</li> <li>・日々ご近所の方に挨拶は欠かさずにできている。</li> </ul>		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や地域の方からの相談を受け活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しその都度状況報告している。又意見や要望があれば、その後の業務に取り入れているようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市高齢福祉課、生活福祉課、地域包括支援センターへ判断が迷う事や分からないことは助言を頂きながら進めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修、外部研修へ参加し勉強会を実施している。マニュアルはいつでも観覧できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間研修に取り入れ、ミーティング研修を実施し職員に周知徹底している。</li> <li>・横須賀市の高齢者虐待研修には必ず参加するように努めている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を実施し身体拘束等の勉強会の中で関連付け話し合いを得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはその都度確認をしながら納得した上で進めるように常に心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人でお客アンケートを年1回実施している。また、各ユニット玄関にご意見ご要望箱を置き積極的に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回のミーティングと各ユニットミーティングを開催し職員が意見できる場を設けている。必要があれば改善をしていくようにしている。</li> <li>・連絡ノートを活用している。</li> </ul>		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を実施し就業環境、条件を確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修案内の提示し希望者、上長の判断でその人に必要だと思われる研修についてはその都度、声かけしている。</li> <li>・回覧し希望者にはシフト調整をしている。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修への参加を積極的に進め情報交換を行わないながら、より良いサービスを追及していける環境を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用して、ゆっくりと時間をかけながら聞き取りをするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に説明をし、不安があればどんな些細なことであっても丁寧に答える姿勢をみせて不安を解消するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方から話しを伺いながらセンター方式を使ってアセスメントをして支援の見極めを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほほえみ横須賀佐原、基本理念をいつも意識するようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たち職員の役割は、本人と家族の橋渡しであることを意識してもらおうよう日々伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や知人が面会に来てもしリビングやお部屋で気兼ねなく過ごすことができるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の体調を考慮して仲間同士の時間やお茶の時間を職員が入って設けることで孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了も電話相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の表情、観察と会話の中でご本人の気持ちを汲み取りセンター方式を活用し一人ひとりがどのような希望を持っているかを掘り下げていくようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しご本人の気持ちから聞き取りで分からないことはご家族様や以前関わっていたケアマネージャーからも聞き取りをして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用するとともに各ユニットミーティングで話し合を行い現状の把握を共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族への聞き取りを行なうとともに医療関係者の意見を参照し職員とカンファレンス、日常支援シート評価の作成のもと介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌へ落とし込みユニットミーティングで共有し介護計画に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療関係者のアドバイスを受け健康管理に努めている。また訪問マッサージの利用などもニーズに応じて取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーで欲しい物を買に行き地域の方々と触れ合う機会を持てるように支援している。また、土地のオーナーの敷地内にある果樹園の収穫作業のお手伝いをさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間、祝日祭日にも対応して頂き、ご本人ご家族に安心につながっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師にその都度相談し情報交換に努めている。係りつけ医院、看護師に常にアドバイスを頂き不安や悪化の防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は早い段階でご家族、病院側と連絡調整を行い早期退院に向け病院関係者と連携を密に取るようにしている。又退院前にはカンファレンスに同席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	係りつけ医院と相談し、その結果をその都度ご家族へ報告している。また今後の見通しなど話し合い方針の見直し、情報の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に消防隊員の方から応急手当など実践訓練を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年2回実施している。又民生員やご家族への参加を呼びかけアドバイスを受け今後活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスや高齢者虐待防止の勉強会を行なうとともに、フロアミーティングで確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こまめに声かけを行いその結果を記録に残すことで共有を図り、対応の仕方を工夫し続けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	アセスメントなどでご本人の生活やリズムで把握し、尊重する体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望の美容院へ行かれるよう日程やご家族に相談上支援行なっている。また本人希望の化粧品なども買い物支援を行いおしゃれができるように支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や祝日には、イベント食を提供している。外食の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録や水分表を確認し水分補給が思うように取れない場合は少しずつ回数を増やして摂取していただけるように時間をずらしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行なっている。個々の往診医に定期的に検診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認して排泄パターンを把握しそれに合わせたトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維など食事の中に取り入れように食材業者と話し合っている。必要があれば主治医に相談して薬を処方して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者様のタイミングや体調に合わせて入浴できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を尊重し、無理強いはしない。また、日々の体調変化を見逃さずにさりげなく休憩を促し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを活用し職員がいつでも回覧できるようにしている。処方の変更時には申し送り、介護日誌を活用し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を元にそれぞれができることのサポートをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩、買い物にでかけている。 毎週2回地域のラジオ体操に参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでかける際は、ご入居者様に必要物品を聞いている。 車椅子方もレジに並びお金のやり取りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはいつも行なっている。  毎年、年賀状を書く支援も行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期のイベントや季節に応じ飾りつけを変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分やプライベート部分があり個々に自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご本人の馴染みにしている物など自由であることを伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計、手すりの設置が充実している。ナースコールがあり必要に応じ使用している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター横須賀佐原

作成日 平成 29年 1月 19 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域包括参加	日程調整	包括に訪問依頼	1/17 運営推進会議参加
2	6	アンケートで「わからない」と家族からの回答がある。	理解して頂く。	毎月のお便りで日常生活をもっと詳しく記入する。	今月中
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。